

2010年度 入試問題分析シート

東京大学

前期日程

科目

国語(古文)

文科	試験時間	150分	満点(配点)	120点	出題数	現代文 2題 古文 1題 漢文 1題			
理科	試験時間	100分	満点(配点)	80点	出題数	現代文 1題 古文 1題 漢文 1題			
総括					難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化	
					分量(昨年比)	増加	昨年並	減少	

<総論>

本文は理文共通で、約830字。昨年度とほぼ同じ分量。問題本文は、過年度のもの一般と比較して理解し易い。理科の設問は枝問数は5、文科の設問は理科の枝問をそのまま用いた上に、さらに2つの枝問を付加して、合計7。枝問数は、理文ともに昨年度と同じ。現代語訳と説明問題の二種類の設問形式で構成されている点も、例年と変わらない。

<合格への学習対策>

基本的な語彙や文法事項を身につけた上で、文章全体の展開を考慮しながら読み解く読解力が求められる。さらに、設問が指示するかたちで解答を作成する工夫が必要である。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
第二問	説話	『古今著聞集』 (橘成季編。1254年成立)	本話は『十訓抄』にも収められており、こちらは2009年度の大阪大学や2008年度の広島県立大学等で出題されたことがある。	やや易

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
第二問	文科(一) 理科(一)	記述	現代語訳の設問で、基本的な解釈力を問うている。この設問では、前後の文脈を生かした訳出が望まれる。特に文科(カ)・理科(オ)の訳出には工夫が必要。	標準
	文科(二) 理科(二)	記述	傍線部の表現内容を説明する設問。傍線部に至るまでの文脈の理解が前提となる。	やや易
	文科(三)	記述	指示語の内容を補って現代語訳する設問。解釈も指示内容の捕捉も、ともに容易。	易
	文科(四) 理科(三)	記述	傍線部の表現内容を説明する設問。傍線部の直前の理解が求められる。注が付されているものの、仏教にかかわる古典常識を援用することとなる。	標準
	文科(五)	記述	具体的な内容を明確にしたうえでの現代語訳。こなれた現代語に改める表現力が求められる。	やや難

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。